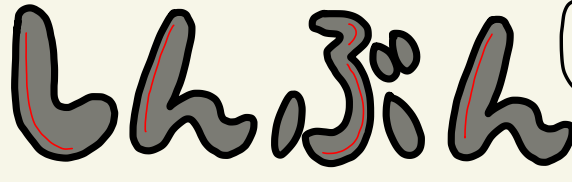


多様性はせっみょうな
バランスで成り立っている

ただ多様性を増せばいいと
いう話ではない

Vol. 74



多様性って
4足かいて
...って!?

発行日：2023年 4月 25日

発行：朝日塾中等教育学校 理科

アカハライモリの交雑って 何でダメなの？

前回のイモリしんぶんでは、同じアカハライモリに見えても、中身（遺伝子）が異なることがあることを紹介しました。

以前、イモリには地域性があることを紹介しました。地域ごとに異なった特徴（遺伝的な特徴のこと）をもつことで、種全体として、遺伝的多様性がある、ということになります。特に、大きく移動ができない小さな生物では、遺伝的多様性が高い場合があります。

遺伝的な特徴が集団において変化することには、いろいろなきっかけがあります。地理的な分断による遺伝子頻度の変化が代表的な例として挙げられます。それ以外にも、伝染病や捕食者による集団の縮小など、さまざまな要因が考えられます。

遺伝的な変異が、地域の特徴を反映している場合があります。そのような地域には、その地域で生息することに適した特徴をもつ集団が存在します。では、そのような集団に、別の特徴をもった個体（あるいは集団）と交雑すると、どうになってしまうのでしょうか。

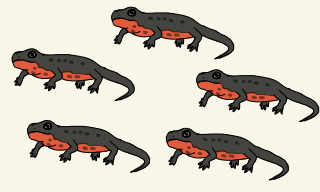
一体、どうなっちゃうの～!?



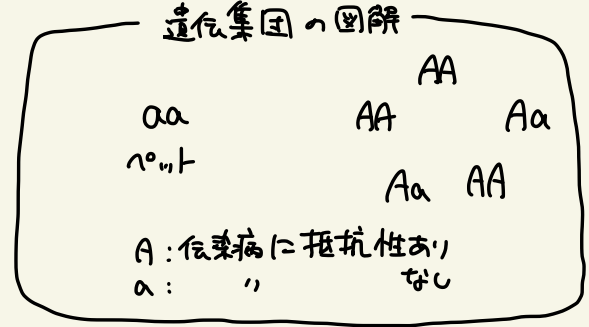
一体どうなっちゃうん
たさうね(笑)

例) これは実際の例ではなく、フィクションです

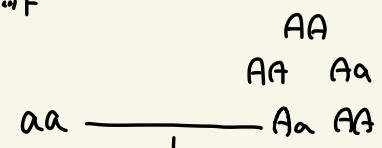
この遺伝集団は、その地域に
存在する伝染病に抵抗性が
ある個体が多い。



ぜんぜんちがう
地域からやってきた
個体



aa と Aa が交雑すると...



子 Aa:aa = 1:1 の割合でうまれる



集団で、「a」の遺伝子をもつ個体の割合が増えていく。



集団として、伝染病への抵抗性が低くなる



あるとき、伝染病が流行してしまい、多くの個体が死んでしまう……。

次回 イモリの民俗学5

またあ～?